



令和5年6月7日
海上保安庁

日米比海上保安機関の連携による初の合同訓練等を行いました

～三機関合同訓練、能力向上支援等を実施～

海上保安庁は、令和5年6月3日(土)から7日(水)の間、米国沿岸警備隊(USCG)及びフィリピン沿岸警備隊(PCG)と、初めての三機関合同訓練等を行うとともに、米国沿岸警備隊と連携してフィリピン沿岸警備隊職員への能力向上支援を実施しました。

1 日米比海上保安機関の連携強化等の内容について

(1) 三機関合同訓練等

東南アジア周辺海域における海賊対策のために派遣された巡視船あきつしまは、マニラ湾沖において次のとおり、USCG 巡視船「STRATTON」並びに PCG 巡視船「MRRV-9702」及び「OPV-8301」との三機関による初の合同訓練を実施し、必要な技術・知見を共有するなど連携強化を図りました。

3日(土) 机上訓練 ※PCG 本庁にて実施

5日(月) 船隊運動訓練等

6日(火) 搜索救助訓練等

7日(水) 訓練検討会等

本訓練は、日米海上保安機関による共同取組「SAPPHIRE(サファイア)」の一環でもあるところ、同取組に第三国の海上保安機関が参加するのは、初の試みとなりました。

今後も海上保安庁は、これらの取組を通じて、我が国が推進する、法の支配に基づく「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」の実現に向け、各国海上保安機関との連携・協力を推進します。

(2) 能力向上支援

海上保安庁の能力向上支援の専従部門である MCT (Mobile Cooperation Team) 3名を派遣しました。

ア 6月4日マニラ港停泊中の巡視船あきつしま、日本が供与した PCG 巡視船「MRRV-9702」において、巡視船の業務遂行に必要な搭載艇運航に係る安全管理を含めたブリーフィング・デブリーフィング、搭載艇揚降及び操船の研修・訓練を実施。

イ 6月4日、MCTによるの搭載艇運航にかかる能力向上支援と並行し、USCG 職員は PCG 職員に対してダメージコントロール(被害制御)の研修を実施。

ウ 6月5日及び6日、マニラ沖の海域において互いの船に職員が同乗するシップライダープログラムを実施。シップライダープログラムを通じ、巡視船運用技術を互いに共有。

日米比3か国での相互交流により、知識・技能を共有するとともに、職員同士の顔の見える関係を築き、三機関の連携強化に貢献しました。なお、これらのプログラムも、日米海上保安機関による共同取組「SAPPHIRE(サファイア)」の一環であり、海上保安庁とUSCGの双方による、PCGに対する海上保安業務遂行能力の向上支援を連携して実施しました。

2 参考

派遣巡視船

第三管区海上保安本部 横浜海上保安部所属

巡視船あきつしま

(総トン数6,500トン、ヘリコプター2機搭載型)



(1) 三機關合同訓練



机上訓練



船隊運動訓練



搜索救助訓練



搜索救助訓練

(2) 能力向上支援



PCG 船上での搭載艇揚降訓練



注意事項を説明する MCT 隊員



搭載艇揚降訓練ブリーフィング



PCG 船上での交流